

「地球温暖化防止すごろく (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

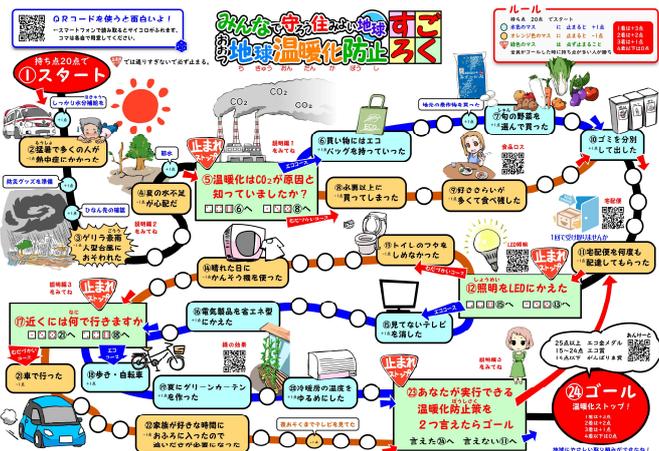
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私が小学生の頃は、男の子も女に子も「自由帳」というのを持っていて、それにさまざまなものを描いたり造ったりしたものだ。私の場合「マンガ&ゲーム」という題名をつけていた。4コマ漫画のようなもの、モンタージュゲーム、落書きなど雑多で、1週間に1冊ぐらいノート消費していたような気がする。中でも「すごろく作り」はとても楽しく、休み時間に夢中でやっていた記憶がある。



6年生理科の最後の単元は「地球環境」を総合的に扱う内容だ。観察や実験が難しい単元で、どうしても調べ学習や話し合い、ビデオ視聴などが中心になってしまうことが多い。私は「環境問題すごろく」を作らせようと思い、まず既成のものを探してみた。「環境問題 すごろく」と検索すると、大津市が制作したものがヒット、さっそく A3 の用紙に印刷しておいた。



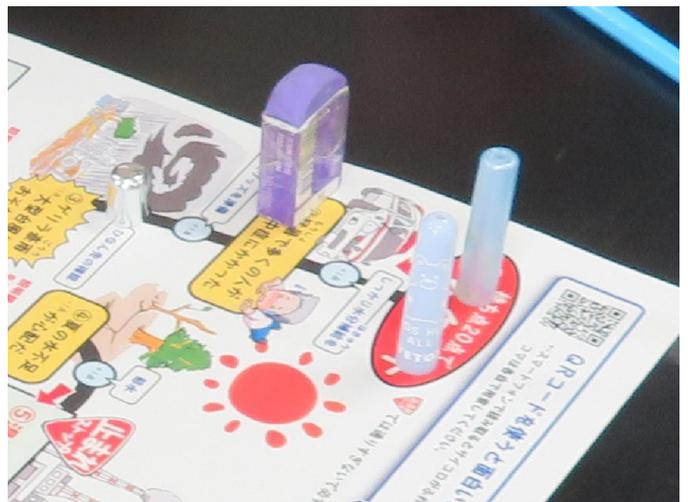
コンピュータやビデオゲームに慣れた子どもたちにとって、紙のすごろくはかえって新鮮な印象だったようで、すぐに興味を示してくれた。ルールは簡単で、スタートで「持ち点 20 点」をもらい、さまざまな環境問題の問いを考えながらゴールに向かって進むものである。楽しみながら学べそうな内容だ。



サイコロも「エコ」にした。不要になった鉛筆を短く切って、1~6の数字を書いておいた。子どもの頃に作ったもので、これで十分にサイコロの役目を果たす。



得点はノートに書かせても良いのだが、今回は「金貨」のカードにした。こうすると気分も盛り上がるようだ。これを 20 枚ずつ配布し、各班の「銀行」にも何枚か置くことにした。



コマもわざわざ作ることはせずに、筆箱の中にあるもので代用した。消しゴムを使う子どもが多かったが、鉛筆のキャップや、短くなった鉛筆を利用する子どももいた。これで十分にできることもわかった。